

# 令和7年度学校評価報告書

## 1 本年度の重点目標

生徒一人ひとりの学校生活を充実させ、希望進路を100%達成するために  
 (1) 基本的な生活習慣を養成し、社会人としての資質・能力を育成する。  
 (2) 基礎学力の定着を図り、希望進路達成できる学力を身に付けさせる。  
 (3) キャリア教育を組織的に推進し、勤労観・職業観を育成する。  
 (4) 学校行事・部活動・地域連携活動の活性化を推進する。  
 (5) 安心して学校生活が送れるよう、安全教育を推進する。

## 2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価	
		自己評価結果	改善の方策
学習指導 (教育運営部)	① 基礎学力の向上	B	課題への取り組みや提出等について、一部の生徒が求められる基準に達することができなかった。
	② 授業力の向上	A	各教科担当が、生徒の実態に合わせ様々な教材を工夫し、授業を実践することができた。
生徒指導 (生徒支援部)	① 自主性・主体性のある生徒の育成	B	生徒が自主的・主体的に学校生活を送ることができた一方で、身だしなみ等の指導が不十分な部分もあった。今後も学校全体での一貫した指導体制の構築と粘り強い声掛けが必要である。
	② 生徒の心身の健康と健全で豊かな学校生活を送るための支援	A	SCやSSW、学校生活適応支援員、通級指導外部巡回教諭と上手く連携を図りながら、外部専門機関とも連携することができた。またいじめアンケートを実施して教員間で共有し、保護者にも実施したことを周知した。校内いじめ問題対策委員会を開催して組織として迅速に対応することもできた。
	③ 校内の安全・衛生管理 および、清掃活動の推進	A	清掃活動や清掃チェックにおける振り返りを行うことで生徒の美化意識を育むことができた。また学校保健委員会や衛生委員会を通して校医と連携し、課題を改善することに繋がられた。
進路指導 (進路企画部)	① 進路・系列・年次の連携による進路指導の充実	A	企業訪問等の情報を共有し、就職活動やインターンシップ等の進路活動に反映することができた。また、必要に応じて保護者との面談を通じて生徒・保護者・学校の細かな連携で積極的な進路指導が展開できた。
	② 生徒個々の適性および実力把握	B	長期休み明けなどに様々なテストなどに取り組み、生徒たちの実態把握が行われていた。年次の教科・系列の教員を中心に、各種検定・資格や特別教育、技能講習など、進路希望にも即して資格取得・指導が展開されていた。
	③ 地域連携活動の推進による勤労観・職業観の育成	A	各系列の活動のみならず、系列横断での地域連携事業に取り組み、活動を通して社会性を身につけ、次世代の地域人材育成に貢献した。

4 系列の 特色ある 教育活動	① 農学系列の教育活動の推進	A	大張沢尻の棚田実習では、棚田集落協定の他に丸森町、宮城県、東北農政局など協力を得ながら取り組んでおり、活動が年々発展している。地元の農業文化を受け継ぐ意味を授業に組み込み、実習を行っているため生徒達の集中力も向上している。また、メディア等で注目されることで生徒のやる気を引き出し、自己肯定感を養う取り組みに繋がっている。また、役場や町のこども園、直売所への農産物販売を通して、地域に根ざした学校の取り組みにも力を入れている。
	② 機械系列の教育活動の推進	A	地域のイベントへの出展、防獣対策用檻の設置など地域連携を推進することができた。また、企業と連携してドローンの利活用についても取り組んだ。4系列合同事業を通し、3年間の専門的な学びを地域住民や外部へ魅力発信するとともに、地学地就を概ね実現することができた。 今年度、産業用ロボットを2台導入し、社会の変化に対応できる学習環境の整備を実現できた。
	③ 情報（商業）系列の教育活動の推進	A	地域団体と協力して、放置竹林整備活動に取り組んだ。伐採した竹は商品開発に活用し、伊具高祭や地域イベントで販売することで、来場者へ活動の目的や成果を伝えることができた。更に学校の魅力を発信するPR動画の作成に取り組み、外部講師の指導を受けながら、企画から取材、編集までを生徒主体で行うことができた。学習面では、進路達成の一助としての資格取得に取り組み、多くの生徒が目標に向かって努力した。
	④ 福祉系列の教育活動の推進	A	校外での介護実習をはじめ、様々な教科で外部講師の活用によって、実際の現場の視点も取り入れながら指導を行うことができた。また、技術検定では、全分野において2級まで実施し、生徒がより専門的な知識を学べる機会を設けることができた。舘矢間小学校と連携した「防災教育」や丸森町農業創造センターと共同で「干し柿作り体験」を行い、地域と連携しながら生徒の学びを深めることができた。
（地域 学校づくり 運営部）	① 地域への学校情報発信の充実	A	各部署に学校通信作成に協力頂き、学校の様子を詳細に伝えることができた。今年度は学校行事等の発信をリアルタイムでできるよう、各系列にも担当者をおいた。ブログ作成のマニュアルも作成できた。
	② 地域と連携した教育活動の推進	A	各系列の地域連携事業の他、「まるもり HARENOBA まるしえへ」の参加を通して系列の枠を超えた連携活動も実施することができた。
	③ P T A 活動の充実と同窓会との連携	B	P T A の事業については、概ね実施することができた挨拶運動や文化祭への参加など、P T A の事業を役員の方々と一緒に行うことで、本校ならではの取り組みができた。同窓会への働きかけ・行事の開催にも対応できた。